

平成27年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい五代の子」の育成

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

①○授業の充実（楽しく、どの子にも分かる授業）

② 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）

③ 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）

④ 道徳教育の充実（豊かな心と道徳的実践力の育成をめざす）

⑤ 交流や体験学習を通して、人と関わることの喜びや達成感、自己肯定感を育む活動の充実

⑥○決まりを守り、礼儀正しい生活ができる等、規範意識の育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

☆：重点目標

【学校運営】

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置づけ、道徳教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図りたい。

☆○一人一人のよさを認め合い、心が通い合う人間関係づくりを図る、安全で楽しい学校づくり

【児童生徒指導】

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ お互いを認め合い、豊かな心をもつ児童を育成する。

【健康・体力】

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・性教育・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

☆ 自分の体に関心を持ち、進んで運動に取り組み、健康の保持増進を心がける児童を育成する。

【学習指導】

指導方法等の工夫により、基礎的・基本的内容の確実な定着を図るとともに、問題解決的な学習や、体験的な学習を適切に取り入れて、学ぼうとする意欲や態度を育て、児童にとって「分かる授業」を実現する。また、授業において、受容的で共感的な話す・聞く能力や態度の育成を通して人間関係力の育成も図る。

☆ 基本的な学習態度や学習技能の習得を基にした基礎・基本の確実な定着を図る。

5 自己評価（評価項目の A は市共通、B は学校独自を示す）

※地域学校園内で共通する取組は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	具体的な状況及び改善策
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「わたしは、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかかわり」を大切に適切な支援を行う。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 93.0% ↑ (91.8%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 94.8% ↑ (93.6%)、地域住民 100%→(100%) といずれも 90%以上で達成状況は良好である。 【次年度の方針】 - 児童がさらに充実した学校生活を送れるよう、「新学習指導要領」「宇都宮スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、諸計画の修正を加え実践を継続していく。 「他者とのかかわり」を大切にした支援を、引き続き行っていく。 - 児童会を中心になかよし班活動の充実を目指す。 - 水曜日のロング昼休みに縦割り班で活動する「なかよしタイム」を月に1回実施し、班の連携を深める。 「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等に関連する行事等を実施するときなど、機会あるごとに主務者がその趣旨や目的等を説明していく。 - それぞれの部会を中心に話し合いを進め、小中一貫教育の目的が達成されるように実践していく。 - 交流連携部会を中心に相互乗り入れ授業等、連絡を密に取り合い進めていく。
		② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。	B	
		③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。	B	
		④ 小中一貫教育実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。	B	
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、よいところは認め、指導すべきことはしっかりと指導する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 98.0% ↑ (96.8%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 91.8% ↓ (92.2%)、地域住民 100%→(100%) といずれも 90%以上で達成状況は良好である。 【次年度の方針】 - 次年度も昼休み等の時間を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声掛けなどを継続的に行っていく。
		② 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠意を尽くした対応に努める。来校者・電話・連絡帳等には、速やかに親切に対応する。	B	

		③ 学校経営への参画意識をもち、担当の校務分掌業務に対して、主体的に取り組み、効率的な運営・改善を図る。(新たな発想プラスワン企画、自分の得意分野を伸ばす、互いに支え合う組織づくり)	B	・校務分掌業務に対し、スクラップ&ビルドが実行できていない面がある。必要なものは残し、取組を精選しながら効率的な運営を行っていく。 ・欠席児童への電話連絡や家庭訪問の実施、来校者への積極的な声掛け等は、次年度も積極的に行っていく。 ・保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。 ・各自が学校経営への参画意識をもち、それぞれの校務分掌において学校長の示す「学校経営の方針」の具現化に努める。
		④ 欠席児童への電話連絡及び家庭訪問実施、授業参観時の来校者への積極的な声かけを行う。	B	
		⑤ 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションをとるようにし、また誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。	B	
		⑥ 組織として機能できるようこれからも校務分掌業務に対して主体的に取り組んでいく。	B	
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活をしている」⇒児童の肯定的回答80%以上		① 「生活と学習・10の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、自己評価をする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は82.8%↑(79.6%)を示し、数値指標80%以上を上回っており、保護者91.6%↑(87.7%)、地域住民100%↑(90.9%)とも高い値を示している。 ・教職員は91.7↓(97.4%)と評価は高いが、昨年度よりも低くなった。 【次年度の方針】 ・週の生活目標を児童に意識付けするために、放送委員会に協力を依頼し、毎朝の放送時に生活目標を発表してもらう。 ・児童指導関係の教室掲示は「生活と学習の約束」と生活目標のみにする。「五代の子の一日」は、内容が多く文字が見えにくいので、年度初めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るようにする。 ・新1年生の下校指導に、保護者や地域の方にさらに協力していただけるよう、育成会を通じて協力を依頼していく。
		② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定や周知を工夫するとともに、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。また、生活の振り返りを行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。	A	
		③ 「五代の子の一日」の提示を工夫し児童の生活を振り返らせる機会を与えるとともに、学級の児童一人一人の個別指導の充実を図る。	C	
		④ 毎職員会議後の、特別支援を要する児童の経過報告や児童指導委員会における事例研究などの研修を実施し、児童理解に努める。	B	
		⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連絡会により、学校間や地域との連携を図る。	B	
		⑥ 学級懇談会の充実や育成会の協力により、家庭・地域との連携を強化する。	A	

A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで授業力を高め、授業や学習をより分かる楽しいものにしていくことにより、学力向上を図る。 ② 分かる授業を展開するために、「一人一授業」(研究授業)を実践し、自己研修と授業力向上に努める。また、学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ② 『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上について「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 95.0% ↓ (95.5%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、地域住民も 100% ↑ (90.0%) と高い値を示している。 ・教職員 94.4% ↓ (100%) も評価は高いが昨年度より低く、保護者は 83.8% ↑ (83.1%) と他者よりも評価が低かった。 【次年度の方針】 ・学習のねらいを明確にし、授業のねらいを達成するための効果的な活用を意識し、視聴覚教材や実物見本等、児童が興味をもって学習に臨めるような教材を使用して分かりやすく楽しい授業を行う。 ・学年会等で、各教科の教材研究を重点化する。「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ・教職員間で互いの授業を参観することにより、授業を見る目を養い、よいものを積極的に取り入れていく。 ・「わかる授業」チェックリスト(自校化したもの)の項目を常に意識しながら授業を行い、授業後に自己評価を行い、授業力向上を図る。 ・保護者の評価が低かったので、「The・学力向上」等の便りを通して、学校での取組を地域住民にも積極的に発信していく。
A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳や学級活動、朝や帰りの会を活用し、「いじめは絶対に許さない」という意識を高める。 ② 「いじめゼロアンケート」や教育相談を実施することにより、いじめの早期発見と早期解決に努める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 97.2% ↓ (98.0%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、地域住民 100% ↑ (63.6%)、教職員 97.2% ↓ (100%) も高い値を示している。しかし、保護者 73.2 ↓ (74.7%) の値は低く達成状況は十分ではなかった。 【次年度の方針】 ・保護者や地域住民に、いじめゼロ強調月間の取組の様子を伝える機会を意図的に設けていくようにする。(学年だよりや学校ホームページ等) ・いじめゼロアンケートを年2回から年3回(統計的にいじめが最も多い9月を増やす)にし、いじめに関する児童の実態をより把握できるようにする。 A

学 校 運 営 の 状 況	A6 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画を実施する。学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行ったりして、児童の成就感存在感を得られるような行事や日課になるよう継続実施を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 90.9% ↓ (92.1%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 96.2% ↑ (94.4%)、地域住民 100.0% → (100.0%)と達成状況は 90%を上回っており良好である。 【次年度の方針】 ・反省が次年度に生かされるように各主務者は、今年度中に改善策を検討し、次年度の主務者に引き継いでいく。 ・特に高学年は行事（ふれあい文化教室、租税教室、薬物乱用防止教室等）を計画的に行ったり精選したりし、児童が主体的に活動できるように考え、実践していく。 ・児童会主催の集会や組織の見直しをすることにより、活動の活性化と効率化を図る。「なかよしタイム」充実させることで、高学年児童がリーダーシップを育む活動として、次年度も引き続き実施する。 ・就学時健康診断は5年児童が係を行うことで好結果を生みだすことができるため、次年度も引き続き、5年生が係を行う。
		② 実施後は、次年度の教育課程に反映させるため、教職員、児童、保護者による行事アンケート、授業アンケート及び「自己点検カード」を記入し、改善策を検討する。	B	
		③ 「なかよしチャレンジ」の活動を「なかよしタイム」に生かすことで、高学年児童がリーダーシップを育む活動として本年度も継続して実施する。	B	
		④ 就学時健康診断は5年児童が係を行うことで、次年度、新1年生に対し6年生としてかわることができするため、本年度も同様の方法で実施し結果を検証する。	B	
		⑤ 教職員による各種行事の反省は、速やかに行い、問題点を本年度中に検討し、改善策検討し、改善策を考え、文書等に残し次年度に生かしていく。	B	
	A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。 〔全〕 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業参観や「オープンスクール」には、地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概要や解説など用意して、より理解を得られやすくする。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率は 96.6% ↓ (97.1%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、地域住民 100% → (100%)と達成状況は良好といえる。 【次年度の方針】 ・これからも学校の公開や情報の積極的な発信・提供を行っていく。 ・学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は引き続きその都度知らせていく。 ・各種便りは係を中心にこれからも質・量を高める努力をする。 ・児童の体力の状況はその都度知らせ、保護者に把握してもらうとともに、体育の授業等で補強運動を取り入れる。 ・学習や生活の状況は、「個人の記録」とともに、教育情報システムの「日々
		② 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は、その都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。	B	
		③ 校長室だより、学年だより及び各種だよりの発行やホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。その際、情報のあり方を工夫改善しながら、情報提供の質・量を高める。	B	

		④ 児童の体力の状況は、「五代の子」(体育関係通信表)を1年間に1回ではなく、体力テストや各種検定後、保護者に渡し、把握してもらう。	B	のようす」も活用する。 ・危機管理情報は、メール配信で情報を提供していく。(メール配信の加入率100%になるように働きかける。) ・地域学校園で「食育だより」などを発行できるかどうか検討していく。
		⑤ 学習や生活の状況は、通知票以外に、個人懇談や家庭訪問、学級懇談等で知らせられるよう、詳しく記録を残す。	B	
		⑥ 危機管理情報は、宇都宮市が行う学校情報提供システム、メール配信による情報を速やかに伝えられるようにする。	B	
		⑦ 小中一貫教育として、本年度「図書だより」を発行したが、新たな便り、ホームページ等で情報を発信していく。	B	
A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。[全] 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで、学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 91.6% ↓ (94.3%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 91.6% ↓ (92.6%) 地域住民 100% ↑ (90.9%) と達成状況は良好である。	
	② 「親子給食会」は、今年度の取り組みを充実させ継続実施する。「学校保健・給食合同委員会」では、給食試食会の充実を目指し、一般の保護者の方にも積極的に参加を呼びかけ拡充していく。	B	【次年度の方針】 ・今年度の取組を定着させるとともに、可能な範囲で家庭や地域、企業等との連携を図り、児童の学びにつなげる。 ・「親子給食会」を引き続き実施し、給食に関する取組について保護者の理解を得るとともに、「食育」に関する家庭の協力をあおぐ。また、地域協議員による給食試食も継続する。	
	③ 昨年度の取組を継続実施していくとともに、児童が様々な人とかかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。	B	・低学年における幼・保・小連携の推進や、「五代夏まつり」への協力により、児童に地域との関わりをもたせる。	
	④ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。	B	・安全・安心ボランティアとの連携を密にし、児童の安全確保に努める。	
A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。[全] 【数値指標】 児童アンケート「学校は、清掃がしっかり行われ、学	① 校舎内外の整備・保全及び教室や教材教具の整備・補充など努め、学習意欲を高める掲示や季節感ある環境構成を工夫する。(年度初めの環境整備計画に沿って実施できるようにしていく。)	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は、83.8% ↑ (82.3%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 92.6% ↑ (89.8%)、地域住民 100% ↑ (72.7%) と達成状況は良好であった。しかし、教職員は 72.2% ↓ (84.2%) と評価が低かった。	

教育活動の状況		習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	② 縦割り班清掃を実施し、日常の清掃指導の徹底を図るとともに、児童の活動を細やかに見取り、適切な指導と賞賛を重ねることにより、清掃の仕方を身に付け、自分たちの学校の美化に努めようとする意識を高める。	B	【次年度の方針】 ・教材教具をスムーズに取り出せるよう整備・表示をする。 ・本年度に引き続き、年度初めの計画に沿って実施できるようにしていく。 ・清掃分担は年に3回変更する。そのために、清掃班となかよし班の2つの縦割り班を編成する。
		B1 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明に心がける。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.4% ↑ (87.6%) を示し、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 88.8% ↑ (85.7%)、昨年度を上回っている。 ・地域学校園の取り組みとして、学校全体で家庭学習に積極的に取り組んできたことや、地域協議会が主催し教育講演会を行ったことなどが、評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でより細かに検討し歩調を合わせて実施する。 ・実態にあった宿題を適切に出す。 ・児童には、家庭学習の重要性をよく理解できるように話したり、個に応じた宿題を工夫したりして、習慣形成の支援を引き続き行う。 ・「自主学習の仕方」のプリントなどを活用し、学年の発達段階に応じた指導を徹底することで、自主学習への取組を工夫する。 ・保護者への協力や家庭での学習環境づくりを機会あるごとに呼びかけ、学校と家庭が連携して、根気強く児童の指導に当たるようにする。 ・継続して、チャレンジノートを使用し、参考例を提示することで、家庭学習の意欲が持続できるようにする。
			② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。	B	
	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている 【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施（地域協議会と連携し年2回あいさつ運動強調週間を行う）するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.6% ↑ (86.8%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、地域住民 82.4% ↑ (66.7%) の評価も向上した。しかし、保護者は 71.7% ↑ (70.9%) と評価が低かった。 【次年度の方針】 ・教職員が率先してあいさつを行うことにより、児童の良い手本となりながら意識を高めていくようにする。 ・「おはようございます」+「一言」をつけ、児童のあいさつに対する意識を高めるように努める。 例：「おはようございます。目を見てあいさつをしてくれてうれしいよ。」など。
			② 下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する（登校班長、縦割り班班長の指導等）とともに、小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日を次年度も実施する。	B	
		A11 児童は正しい言葉づかいをしている。	① 「生活と学習・10の約束」の常時指導の結果を、教師も児童も常に振り返るようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 78.9% ↓ (80.6%) を示し、数値指標 80%以上を下回っており、保護者 67.5% ↓

	【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	② 生活目標により自覚を促し、週の終わりには振り返りをし、生活に生かすようにする。	A	(68.2%)、地域住民 64.7% ↑ (58.3%)、教職員 72.2% ↑ (68.4%) とも評価が低かった。
		③ 学校生活の様々な場面において、気持ちのよい言葉づかいについて継続指導をしていく。	A	【次年度の方針】 ・生活目標にいろいろな内容を盛り込みすぎで、特に低学年にとっては何に焦点を当てて指導していけばよいか分かりにくかった。目標を分かりやすい短い言葉で表現し、児童にとって生活を振り返りやすいものにしていく。 ・言葉のつかい方が適切でない児童に対し、場に応じた言葉づかいができるまで繰り返し指導していくようにする。 (職員室への入り方は繰り返し指導した成果が表れている。)
	B2 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は楽しい学校生活を送っている」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・早期対応のため、11月と2月に「いじめゼロ」アンケートによる実態調査を実施する。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 89.7% ↓ (91.8%) を示し、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 96.9% ↑ (96.5%)、地域住民 100% → (100%) も 90%を超えており達成状況は良好であった。 【次年度の方針】 ・「いじめゼロアンケート」を、9月にも実施することで、児童の実態をより把握できるようにする。 ・教育相談「おはなしタイム」の期間中の昼休みは、教育相談を最優先とし、委員会等の集まりをもたないようにすることになっていたが、実際にはいろいろな集まりが必要になって実施されていた。次年度も今年度と同様に一応の期間は設けるが、取組の様子で期間を延ばすなど柔軟に対応していくとよい。
		② 「うつのみや いじめ0宣言」を活用し、いじめ根絶の気運を醸成する。(5月、10月いじめゼロ強調月間)	B	
		③ おはなし会「ぼけっと」の協力を得て、いじめ強化月間中に人権に関する本を取り上げていただき、読み聞かせをしてもらうなど、連携を図った取組を工夫していく。	B	
		④ 教育相談月間「おはなしタイム」(年2回)を充実させるとともに、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。	A	
		⑤ 学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。	B	
		⑥ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。	B	
		⑦ 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。	B	
		⑧ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。	B	

健康・体力	A12 児童は進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」を全学年実施し、その結果をふまえ、児童の実態に応じた指導を徹底する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 91.2% ↑ (89.7%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 89.4% ↑ (85.8%)、地域住民 92.9% ↑ (77.8%) とともに高い値を示し、達成状況は良好である。 【次年度の方針】 ・「元気っ子健康体力チェック」において、市全体・全国と比較して落ちている点については、学校全体で体育の授業の準備運動等に取り入れ、ミニマム達成に努める。 ・学習カードを活用し、児童が意欲的に取り組めるよう指導の工夫を図る。 ・学級対抗のドッジボール大会や長縄とび大会を引き続き実施し、児童が進んで楽しく運動に取り組むきっかけを作る。
		② 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成のために、運動プログラム集を活用し、最低限身に付けさせたい体力や技能の習得に努めたり、準備運動にサーキットトレーニングを取り入れたりと、教科体育の充実を図る。また、運動の日常化を図るため、児童が意欲的に取り組めるような学習カードを充実させる。	B	
		③ 児童が意欲的に運動に取り組めるよう、学級対抗によるイベント（ドッジボール大会や大なわ大会等）などを企画し、運動の日常化を図るきっかけを作っていく。	B	
	A13 児童は栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育パンフレット」や食育ビデオを活用した給食指導の充実を図り、望ましい食習慣と食事マナーを身に付けるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 83.2% ↑ (81.2%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 78.7% ↑ (77.0%)、地域住民 93.8% ↓ (66.7%)、教職員 86.1% ↑ (83.8%) とともに昨年度を上回っている。 【次年度の方針】 ・学級懇談会等により、食に関する保護者への啓発を行い、食事マナーに関する協力を呼びかける。 ・学校においても、児童が興味をもって取り組めるよう工夫しながら、箸の持ち方についての指導を、給食時だけでなく、学級活動も活用して行う。（豆つかみ大会など） ・「お弁当の日」は、地域学校園で同一日に実施する。食事について家庭で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。 ・給食委員会による常時活動の継続と「給食集会」の実施。 ・学級活動の「食に関する指導」において、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や栄養の取り方などについての理解がさらに深まるようにする。
		② 学級活動の「食に関する指導」の授業を行う際に、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や望ましい栄養の取り方などについての理解を深められるよう指導を工夫する。	B	
		③ 食に関する指導では、箸の持ち方ができない児童が多いため、重点化し、指導に取り組んでいく。	B	
		④ 食事のしかたのきまりをつくり、担任がそれに沿って共通の指導をしていけるようにする。また、給食時計を活用し、食事時間の確保に努める。	B	
		⑤ 「食育だより」等を通して、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る	B	
		⑥ 引き続き「お弁当の日」を設定し、食事について親子で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。	B	

		B3 児童は、自分の健康の保持や、安全を考えて行動している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は自分の健康保持や安全を考えて行動している」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	① 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、92.7%↑（92.5%）を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 88.3%↑（85.8%）、地域住民 93.8%↑（75.0%）とも評価が高い。 - 夏の水分補給のための水筒の持参や、うがいのための水筒持参は健康の意識向上につながった。 【次年度の方針】 - 歯ブラシの点検、磨き方等、歯みがき指導を徹底し、むし歯の予防に努める。また、治療の呼びかけも行う。 - 保健委員会の常時活動に加え、朝の歯ブラシチェックを実施する。 - 正しい手の洗い方（石鹸をよく泡立ててしっかり洗い、きれいなハンカチで拭き取る。）を各学級で徹底させる。 - 冬期はできるだけ長袖の体育着を着用させ、けがの防止に努める。また、その旨を保護者に通知する。 - 安全教育を充実させるとともに、集団登下校時における安全確保のため、保護者・地域ボランティアとの連携を推進する。
			② 靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める	B	
			③ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。	B	
			④ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、緊急時を想定した児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	B	
	学 習	A14 児童は進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり、整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに、朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また、習熟のための時数を確保し、指導の充実を図る。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、88.5%↓（89.3%）を示し、数値指標 80%以上を上回った。保護者 86.9%↑（83.5%）、地域住民 85.7%↑（77.8%）ともに昨年度を上回っており、授業力向上を意識した取組の工夫などが評価されたことがうかがえる。 - 教職員は 91.7%↓（97.4%）と評価は高いが、昨年度よりも数値は低くなった。 【次年度の方針】 - 朝の学習・長期休業で漢字・計算練習を充実させ、向上を図る。 - 算数や国語の少人数指導・習熟度別学習の指導法を工夫し、個に応じたよりきめ細やかな指導に努める。少人数指導担当と該当学年担任との打ち合わせを密に行い、互いに連携しながらより効果的な指導が行えるようにする。 - ノートの記事を工夫し、整理された分かりやすい使い方を指導する。 「考える授業・話し合う授業」の取組の効果がみられる。来年度も継続し
			② 朝の学習・長期休業で漢字・計算練習を充実させ、向上を図る。	B	
			③ ノートの記入を工夫し、整理された分かりやすい使い方を指導する。	B	

		④ 考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ、児童同士が学び合うことができるようにする。	B	て、意図的の組み入れ、児童同士が学び合うことができる授業を組み立てていく。
	A15 児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 教室に掲示してある「学習の約束」を確認したり、自己評価を行ったりするなど意識付けの継続を図る。 ② 授業開始時刻の遵守、学習用具の準備や話を聞く態度、発表の仕方など基本的な学習態度や学習技能の習得を図る。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は86.2%↑(85.8%)を示し、数値指標80%以上を上回っており、保護者86.0%↓(86.8%)、地域住民93.3%↑(88.9%)と、達成状況は良好である。 ・教職員は91.7%↓(97.4%)と評価は高いが、昨年度よりも数値は低くなった。 【次年度の方針】 ・各学級において、本年度同様、「学習の約束」を明示し、意識付けを図る。 ・児童一人一人が学習の約束などを理解し、自分自身の学習態度を意識するようにさせる。 ・全職員共通理解のもとで、指導にあたる。
	B4 読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は読書を好み、進んで本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。 ② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入に心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営(図書だよりの内容の充実等)を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。 ③ ボランティア(「おはなし会ぽけっと」や「雀宮おはなし会」など)や委員会児童による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。 ④ 校長、副校長をはじめ担任を持たない教員も朝の読書の時間に読み聞かせを行い、読書への関心・意欲を高める ⑤ 地域協議会学習支援ボランティア(図書ボランティア)と連携し、図書室の環境整備を行う。 ⑥ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通したコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。	B B B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率75.2%↓(76.4%)を示し、数値指標80%以上には達していない。保護者も69.8%↑(68.9%)と低い数値を示した。教職員は88.9%↓(97.4%)と数値は高いものの昨年度を大きく下回った。 ・毎週、授業時間内に学級ごとに図書室を利用し本の貸し出しの指導をしているが、読書量の個人差が大きい。 【次年度の方針】 ・児童の発達段階にあった質的な向上をめざしていく。 ・多読賞の表彰や「おすすめ本のリスト」の配付をした。読書週間には委員会による読書集会や読み聞かせなどを行った。さらに工夫した取組を考え、実施していく。 ・「雀宮おはなし会」の読み聞かせ後、紹介のあった本を一定の期間置いていってもらい、児童が読む機会を作る。 ・ブックトークを授業にさらに取り入れていく。 ・朝の貸し出しを継続する。
本校の特	B5 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。	① 各教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は95.9%↓(96.2%)を示し、数値指標80%以上を上回っており、教職員も100%↑(97.4%)と高い値を示している。保

色 ・ 課 題 等	【数値目標】 児童アンケート「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	② 児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。	B	護者は 82.7%↑(80.5%)と昨年度より数値が上がったが、児童や教職員との差が大きい。教師が、自分の考えをきちんと表現できるような指導法を工夫していることが、保護者にも理解していただけるようにしていきたい。 【次年度の方針】 ・字数を決める、テーマを決めるなど、日記や「書く」ワークシートを工夫する。 ・会話科や道徳だけにとどまらず、各教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し多様な手段で表現できるように指導を工夫した授業を充実させる。 ・「発言のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取り組む。 ・学校の取組として自分の考えをきちんと表現できるよう指導法を工夫していることが、保護者にも理解していただけるよう、機会あるごとに発信していく。
		③ 「発表のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取り組む。	B	
		④ 会話することの楽しさを体験させ、伝えたいことを相手に分かりやすく話したり、進んで相手の話を聞いたりするなど、自分の気持ちや考えを伝え合う力を育成する。	B	
		⑤ 授業参観後の懇談会等で、表現力育成のために工夫していることや個に応じた指導について説明をするなどして、保護者の理解を得るように努める。	B	
	B6 道徳教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年：道徳や授業、体験活動など)では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳の時間では、児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料、「私たちの道徳」を有効に活用し、心に響く授業の展開に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 95.5%↑(95.0%)を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 86.1%↓(86.6%)、地域住民 100%↑(90.0%)の評価も高く達成状況は良好である。 ・道徳の時間や体験的学習、交流活動などを通して、自主性・創造性・協調性・実践力等を伸ばしながら、心の教育を推進した。 【次年度の方針】 ・道徳教材の保管については、実践したものを随時ストックしていき、より使いやすくなるようにしていく。 ・異学年交流や幼保小連携活動は、活動の意義を踏まえて連携を密にし、内容を精選しながら活動計画を検討する。 ・縦割り班活動等の異学年交流において、高学年児童が自主的に活動する場面を意図的に設け、リーダー性の育成を図る。 ・クラブ活動による異学年交流では、児童の希望を通すことも大事だが、学年の偏りがないようにし、望ましい異学年交流ができるよう配慮していく。
		② 読み物資料以外にも、インターネット教材など各種教材を開発し、心に響く授業の展開をする。	B	
		③ 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。	B	
		④ 全校一斉の道徳の授業参観を実施する。	B	
		⑤ 年長さんを迎える会などのふれあい活動や総合的な学習の時間の活動などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。	B	
		⑥ なかよし班や縦割り清掃班の中で様々な学年の友達といっしょに活動することを通して、充実した異学年交流活動ができるようにする。	B	

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- 肯定的回答 80%を数値目標とした 21 項目中（20 項目が児童、1 項目が保護者）19 項目で達成率を超え、取組の成果を上げることができた。
- 児童の肯定的回答が 90%を上回る項目が、「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」（全項目中最高値 98.0%）、「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」（97.2%）、「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるように教えてくれる。」（95.9%）、「学校（道徳、授業、体験活動など）では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」（95.5%）、「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧な指導をしてくれる」（95.0%）、「わたしは、今の学校が好きです。」（93.0%）等であることから、児童は、教職員・保護者・地域の方々に見守られ、明るく生き生きと学校生活を送っていることがうかがえる。
- 「あいさつ」は児童・地域住民・教職員の肯定的回答率が 80%を越えたが、保護者の評価が低かった。また、「言葉遣い」については、児童・保護者・地域・教職員において肯定的回答率の低い項目となった。課題に対しては、様々な活動を行い、児童の姿に変容が見られたが、さらに、意識を高め、実践化を図る取組を地域学校園と連携し継続していく必要である。
- 「読書」は児童の肯定的回答率が数値目標 80%を下回り、保護者の評価も低かった。学校では、読書の時間など児童が関心を持って読書に取り組む姿が見られる。一方、家庭での読書の時間が十分にとれていないことやもっと本を読んでほしいという保護者の願いが相まって、保護者の低い評価となったことが考えられる。今後も家庭と連携して取組を継続していきたい。
- 保護者の肯定的回答が 90%を超えた項目は、「児童は、楽しい学校生活を送っている。」（96.9%）、「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」（96.6%）、「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている。」（96.2%）、「学校全体に活気があり、明るくいそいそとした雰囲気である。」（94.8%）、「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」（92.6%）等であり、学校の取組に対して理解を示していることがうかがえる。
- 地域住民の回答状況は、「学校全体に活気があり、明るくいそいそとした雰囲気である。」（100%）、「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している。」（100%）、「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」（100%）「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」（100%）等をはじめとして、18 項目において 90%超の高い肯定的回答を示した。引き続き学校への理解を深めていただくために、授業参観における授業の見どころ・道徳の授業全学級一斉公開や学校だより・各種便りの工夫、ホームページの充実等への取組を継続していく必要がある。あいさつや言葉遣いについては、保護者・教職員同様肯定的回答率の低い項目となり、今後、家庭や地域と連携を図った取組が必要である。

6 学校関係者評価

今年度の達成状況と次年度の方針について教職員から説明をした後、地域住民と保護者の評価が低い次の 2 点について意見を求めた。

＜あいさつ・言葉遣い＞

・あいさつや言葉遣いが身に付いているかどうかは、個人差が大きい。しかし、あいさつができない子も、こちらからあいさつをするとできる。

・敬語ができない子が多い。しかし、あいさつも敬語も中学生になるとできる子が多くなる。発達にに応じてできるようになるのではないかな。子どもの成長を見守りたい。

・言葉遣いについてはみんなで楽しむ場ではある程度容認しているが、目に余るようなときには指導をしている。また、「ありがとう」が言えるよう言葉かけをしている。

・大人（保護者・地域住民・教職員）が率先してあいさつをし、敬語を使うようにするなど、環境を整えることが大切ではないか。

・あいさつや敬語を正しく使えるようにすることも大切だが、それ以上に相手の目を見て言うことが大切。

＜読書＞

・ゲーム、携帯、DVDにかかわる時間が多く、読書をする時間がないのではないかな。

・本に親しむ環境を整えることが大切。親が読書に親しむことで、子どもも読書に関心を持つようになる。また、漫画

でもいいから本を身近に置くのもいいのではないか。

7 まとめと次年度へ向けて〔学校関係者評価を受けて〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 全体的に見ると、各項目の数値目標がほぼ達成されている。児童は、学校・家庭・地域の連携のもと、明るく元気に学校生活を送っている。
- 学校内と学校外では、あいさつの態度に差が見られるようだ。しかし、地域の人々からの評価が大きく上昇していることから、校外において以前よりもあいさつができる子が増えていることがうかがえる。五代小学区は、自治会や育成会の活動が盛んなので、地域の人たちと顔を合わせあいさつをする機会が多い環境にある。教職員が率先してあいさつを行うことにより、子どもたちのよい見本となりながらさらにあいさつ指導を続けていきたい。
- 言葉遣いの指導とともに、学習や様々な活動の中で自分の思いや考えをきちんと表現できるよう指導を繰り返し行っていきたい。また、相手の目を見て話すことで、心の通じ合うあいさつや会話になることにも気づかせていきたい。
- ・ 読書については、家庭や地域との連携を図りながら今年度の取組を継続し、児童の発達段階にあった質的な向上を目指した取組を工夫していきたい。